

TOPICS

1

●交通安全を考える「セーフティ&エコドライブ」 2009トラフィック・セーフティフォーラムin鈴鹿

10月30日、「2009トラフィック・セーフティフォーラムin鈴鹿」が鈴鹿サーキット交通教育センターで開催された（主催：鈴鹿サーキット交通教育センター、本田技研工業（株）安全運転普及本部）。トラフィック・セーフティフォーラムや各種セミナーは、企業や団体、地域の交通安全活動を推進するリーダーの交流の場として交通教育センターが開催している。

まず、同センターから今回のテーマである「セーフティ&エコドライブ」に関する企業ドライバー向け教育プログラムが参加者に紹介された。

次に、松田研一・ニッポンレンタカーリースクマネジメント（株）RM企画室室長が「ニッポンレンタカーグループの安全と環境への取り組み」について、事例発表を行った。毎年、社員を対象に鈴鹿サーキット交通教育センターで実施している参加体験型の「事故防止研修会」による教育効果、レンタカーを利用するお客様のための事故防止対策などを説明した。また、レンタカー車両としてハイブリッド車や電気自動車を積極的に導入するなど、環境面での取り組みを述べた。

特別講演は、春日伸予・芝浦工業大学工学部教授による「エコドライブの波及効果」。エコドライブの心理的な効果として、自分の運転と燃費との関係を取り返ることが安全運転に必要な気づきにつながること、燃費の向上と



松田研一・ニッポンレンタカーリースクマネジメント（株）RM企画室室長による事例発表

いった目に見える報酬感を与えてくれるため、持続性が期待できることを挙げた。実際にエコドライブ教育によって、使用する燃料だけでなく交通事故件数も削減した東京都トラック協会の事例も報告された。



春日伸予・芝浦工業大学工学部教授

最後に、鈴鹿サーキット交通教育センターのインストラクターが「感情コントロール」というドライバーの感情を穏やかに保つためにホンダが開発しているプログラムを紹介し、その一部を参加者全員が体験した。



参加者はHondaが開発した新プログラム「感情コントロール」の一部を体験

●交通安全を考える「交通事故の実態から見る、企業の交通安全教育」 2009トラフィック・セーフティフォーラムin浜松



統括質疑では参加者からさまざまな質問が寄せられた

「交通事故データから見る安全運転」。篠崎氏は損害保険各社が支払った保険金のデータをもとに、交通事故による被害者数、被害を受けた人や物に直接発生した経済損失の両面から、事故全体の傾向と特徴を解説。被害者から見た傾向では、「被害者数は20〜24歳が最も多いが、人身損害額では55〜59歳の層が最も高くなっていることなどが報告された。また、「生産性の低下や信頼の失墜など、保険金では支払われないものも含め、交通事故によって企業にもたらされる損失を認識しておくことが重要」と提言を行った。

続いて、小泉光由・コカ・コーラセントラルジャパングループ交通安全委員長による事例発表。小泉氏は清涼飲料水を配送するドライバーを対象に、グループ各社の敷地内を利用して実施している安全運転教育研修会の内容などについて説明。「社員に当たり前のことを実践してもらうためには、なぜそうしたルールが必要なのか理解してもらうことが大切」と力強く語った。最後に、参加者から野村氏、篠崎氏、小泉氏への総括質疑が行われ、フォーラムは幕を閉じた。



篠崎豊・（社）日本損害保険協会静岡支部事務局長



参加者は対人関係スキルを磨くグループワークを体験した

午後は、吉田氏がオーガナイザーを務め、「安全な職場を目指すコミュニケーション・スキルアップ」をテーマに対人関係スキルを磨くグループワークを実施した。セミナー参加者が小人数のグループに分かれ、自身のヒヤリハット体験など3つのテーマをお互いに発表し合う参加体験型の学習で、会場は大いに盛り上がった。

●交通安全教育を考える「危険予測能力を高めるためのノウハウ探し」 2009トラフィック・セーフティセミナーin熊本

10月22日、「2009トラフィック・セーフティセミナーin熊本」が交通教育センターレインボー熊本にて開催された（主催：交通教育センター・レインボー熊本・福岡）。

午前は、吉田道雄・熊本大学教授が「セーフティ・ドライブ実現のノウハウ探し」心の筋肉運動のすすめ」をテーマに講演を行った。吉田氏は、「人間集団で起きるミスや事故は、『慣れ』『忘却』など人間集団に共通した問題点が存在する。危険を感じ取り、安全な選択肢を取るが大切」と話す。また、職場内でコミュニケーションの問題があると、ミスや事故も起きてくると説明。「人は、同じ物を見ても人それぞれ見方が違う。交通安全教育も同様で、同じことを伝えても、人によって通じ方が異なる。対人関係・コミュニケーションは筋肉と同じように運動、トレーニングが必要である」と紹介した。その上で、「安全に関する知識があっても事故は起こりうる。『知識から意識へ、そして行動へ』、行動につなげるように1つ1つの実践を大切にして安全活動を継続することが重要」と語った。

会場は大いに盛り上がった。セミナー終了後には、体験視察会が行われ、多くの参加者が、動画KYTや反応急ブレーキ体験、「環境」と「安全」に優しい運転を学ぶホンダセ



吉田道雄・熊本大学教授による講演

●ホンダエンジョイセーフティフェスティバル 2で沖縄でホンダの交通安全教育を体験する フェスティバルを開催



飛び出しの危険性などを学ぶ親子交通安全教室

11月1日（日）、沖縄県警察本部運転免許試験場にて「ホンダエンジョイセーフティフェスティバル」が開催された。会場には、実際に見て、体験して、楽しみながら交通安全を学べる12の体験プログラムが設けられ、入場無料の会場には親子連れやライダーなど500人を超え、親戚が集まった。

他にもドライバー向けに、ホンダセーフティナビを使ったエコドライブチャレンジ、飲酒ゴーグル体験のコーナーを設置。また、地元沖縄県警察本部によるパトカー・白バイ展示、白バイ隊員による白バイデモ走行、ホンダインストラクターと15歳のトライアル沖縄トップライダーによるトライアルデモンストレーション、安全保護員の展示や啓発、冊子の配布、ホンダグッズ抽選会も行われ、会場は終日にぎわった。



トライアルのデモンストレーションでは会場が盛り上がった